

重要文化財 萬^{ばん}代^{だい}橋^{ばし}

—【国道7号】—

国の重要文化財 平成16年7月6日指定・建第二四四七号



新潟とともに75年。 新潟のシンボル「萬代橋」が、重要文化財に指定されました。

萬代橋は新潟市の発展とともにあゆみ続け、いつの時代も新潟市のシンボルとして親しまれてきました。

都市の近代化に対応して75年前に架け替えられた三代目萬代橋は、平成16年7月6日に国の重要文化財に指定されました。

これは、デザイン性と技術的達成度を示す遺構として、萬代橋を文字どおり、萬代(よろずよ)までも遺していこうとするものです。

高い文化的価値を認められた萬代橋はこれからも、現役の橋として、市民が愛する、市民の誇りであり続けることでしょう。

平成の改修プロジェクト、平成16年8月完了。 機能アップして、建設当初の美しい「萬代橋」へ。

本格的な自動車交通の幕開けに対応するために三代目萬代橋が完成してから、今年で75周年。それに伴い、萬代橋75周年記念事業を計画し、その一環として萬代橋の改修工事を実施しました。土木構造物に必要な機能と強さを充実・補強すると同時に、建設当初の美しい姿へと近づけました。

- 照明灯は車道と歩道の間に設置し、橋の側面には橋側灯を取り付け、昭和4年の建設当時の姿に復元。これにより、側面から見たアーチも連続的でリズムカルになりました。
- 歩道は、歩行者部分と自転車部分を分離し、通行の安全性を向上しました。歩行者部分は御影石舗装とし、冬期の通行対策として融雪装置(ロードヒーティング)を設置しています。
自転車部分は水はけのよい排水性の舗装とし、高欄から距離をおくことで転落の危険性を低減しました。
- 高欄については、大規模な修繕を行わず、損傷の著しい部材を取り替えました。鉄柵部分は、防錆性能の高い塗装仕様で塗り替えました。
- 橋詰広場は、建設当初の姿を参考に御影石で舗装し、オープンスペースを確保しました。あわせて、橋詰の角に設置されていた隅柱とそれに接続するロンバルディア帯（半円アーチを連ねた装飾）と呼ばれる壁面も復元しました。



これからは、重要文化財。 新潟の「萬代橋」から、日本の「萬代橋」へ。

「重要文化財」とは、わが国の長い歴史の中で生まれ、歴史、伝統、文化などの理解のために欠くことのできない、国によって指定された「文化的な遺産」のこと。今日の世代に守り伝えられてきた貴重な財産であると同時に、将来の文化の向上発展の基礎をなすものです。建造物の重要文化財の指定基準は、意匠的に優秀、技術的に優秀、歴史的価値が高い、学術的価値が高い、流派的または地方的特色において顕著なもの、のいずれかに該当し、各時代または類型の典型となるもの、とされています。萬代橋は、「文化的な遺産」として「意匠的に優秀なもの」「技術的に優秀なもの」の価値を国に認められたことになります。



A 旧橋詰隅柱



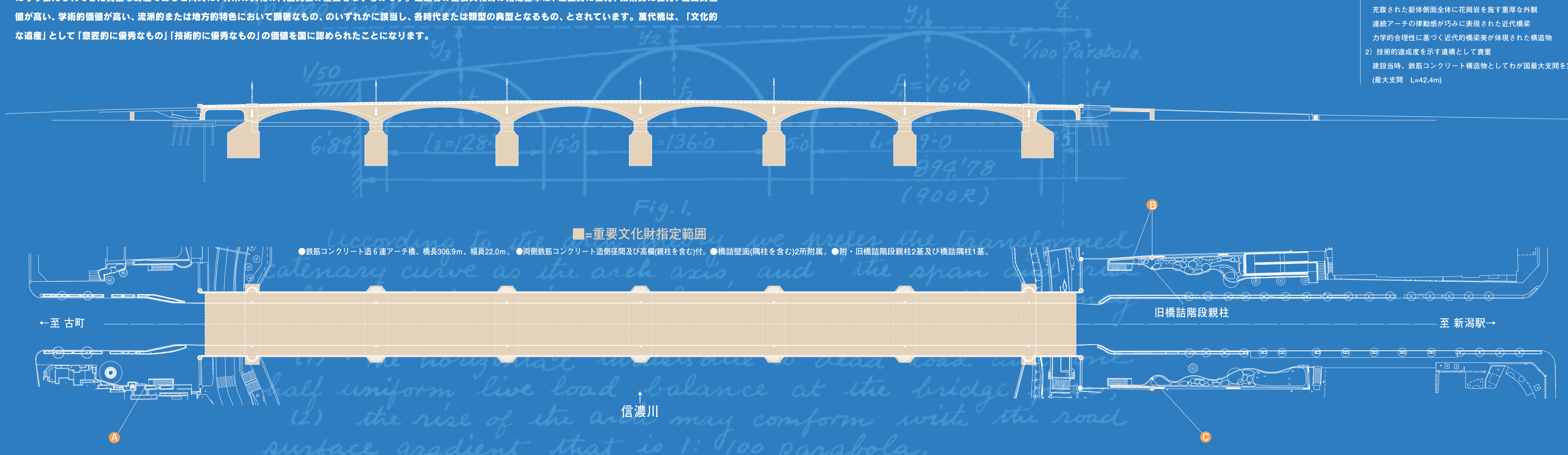
B 隅柱・橋詰壁面



C 旧橋詰階段親柱

■萬代橋の橋梁概要

- 1.名 称 萬代橋（ばんだいばし）
- 2.所在地 新潟市万代～下大川前通・川端町間、国道7号
- 3.構造形式 鉄筋コンクリート造6連アーチ橋
- 4.橋長306.9m
- 5.幅員22.0m
- 6.特徴
 - 1) 橋梁デザイン史場での価値が高い
充腹された躯体側面全体に花崗岩を施す重厚な外観
連続アーチの律動感が巧みに表現された近代橋梁
力学的合理性に基づく近代的橋梁美が体现された構造物
 - 2) 技術的達成度を示す遺構として貴重
建設当時、鉄筋コンクリート構造物としてわが国最大支間を実現
(最大支間 L=42.4m)





いつまでも市民に愛される萬代橋

昭和60年から設置されていたライトアップ施設は、多くの市民のご寄付によって贈られたものでした。

そしてこの度、建設当初の設計図面に基づいて復元された橋側灯にも萬代橋復元プロジェクト実行委員会による募金を通じて多くの市民の熱い思いが受け継がれています。

萬代橋の今昔

初代萬代橋

かつて信濃川下流域にはひとつも橋がありませんでした。木橋の初代萬代橋(よろずよばし)が完成したのは明治19年のこと。当初は個人所有の有料橋でしたが、明治33年4月に県が買い取り、無料橋となりました。



二代目萬代橋

明治41年3月8日、新潟大火により、初代萬代橋は半分以上焼け落ちました。萬代橋は多くの人馬車の通行があり、交通上重要な橋としてその通行を一日たりとも止めることが出来なかったため、県は直ちに建設に着手し、明治42年12月に二代目萬代橋が完成しました。



三代目(現在の)萬代橋

大正11年の大河津分水路通水を期にした改修で信濃川の川幅は1/3へと大幅に縮小されました。それにより、橋を永久橋として架け替えることが実現可能となり、昭和2年7月に着工、昭和4年8月に完成しました。



国土交通省新潟国道事務所

〒950-0912 新潟市中央区南笹口2-1-65 TEL 025-244-2159 <http://www.hrr.mlit.go.jp/niikoku/>

にいく 検索

平成23年(2011年)3月作成